

私立大学の教職実践演習における小学校教員志望学生の学び — 総合的な学習の時間の模擬授業における ICT の活用 —

中 和 渚

Prospective Students' Learning in Seminar in Teacher's Training in a Japanese Private University:
Making Use of ICT in a Students' Demonstrating Lesson for Period of Integrated Study

Nagisa Nakawa

要 旨

私立大学の小学校教員養成課程における教職実践演習で実施した優れた模擬授業に焦点を当て、学生の模擬授業と授業検討の内容、学生へのインタビューから、既習事項を活かしてICTを模擬授業でいかに利用したのか、どのような学びを得たのかを本稿では明らかにする。これを通して本稿では質の高い小学校教員を教育現場に輩出するために、教職実践演習の内容を改善することを目指している。検討の結果、授業者の学生は模擬授業の計画に際してICTを利用して教材研究を深め、自己の知識の無さを自覚しながらも情報を取捨選択し、学び続けることのやりがいを感じたことが明らかになった。ICTを用いて教材をどのように効果的に児童に示すのかを授業者は考え、また児童役の学生は動画や写真などによって疑似体験が可能となったことを振り返った。今後の講義への反省事項として、ICTを用いる効果や課題について具体的に学生間で共有する場面を設定し、議論することの必要性を挙げた。

キーワード：高等教育、教職実践演習、模擬授業、ICT、総合的な学習の時間

1. はじめに

2010年度入学生から必修化された教職実践演習は大学における教職に関する科目であり、教員免許状を取得するための必修科目である。文部科学省によれば、科目の趣旨は全学年を通じた「学びの軌跡」の集大成とされ、学生が教員になる上での課題を明らかにしつつ、不足する知識と技能をこの教科の履修によって補い、定着することであるとされる（文部科学省のweb(1)、中央教育審議会、2006）。

東京未来大学は東京都足立区の私立大学で、こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻の学生約13-20名（1学年あたり）が小学校教員の免

許を取得する。本学では従来の保育士資格と幼稚園教諭免許に加え、小学校教諭免許を取得する学生が2011年より入学した。2013年度に教職実践演習が開講となり、2016度に本講義は3度目の実施となった。

本学の教職実践演習の目的は「小学校教師としての実践的指導力を総合的に育成すること」である。教職実践演習はこれまでに様々な試行的取り組みがなされてきたが、現在、特に学生が苦手とする模擬授業を中心にシラバスを作成している。教職実践演習の内容の改善が、より質の高い教員を養成することにも繋がることから、本稿では2016年度の講義における学生の優れた模擬授業を取り上げて、考察す

る。授業研究のICTを利用した総合的な学習の時間の模擬授業と授業検討会を事例として取り上げ。学生がどのようにICTを利用して授業を計画し、具体化したのか、また、学生の学びを明らかにし、今後の教職実践演習の質の改善を検討する。

2. 教職実践演習に関する先行研究

教職実践演習に関する先行研究として、実施前から実施後の現在まで、いくつかの論文を確認した。しかしながら、長谷川（2015）は教職実践演習の成果や課題を扱った研究は少ないことを指摘している。実施前や直後の研究としては教職実践演習の実施のための情報収集や授業を検討する必要性、意義やあり方を議論したもの（山田、2009）、その批判（大島、2011）等が確認され、近年では、これまでの取り組みや実施上の課題を報告するもの（深川、2014；上田、2013；齊藤、2016）が確認できる。他にも、東北大学教職実践演習運営委員会（2016）の実施報告書もある。本稿で扱うICTの利用については宮川他（2015）が教職実践演習においてICTを用いた評価方法を試験的に運用していると述べている。模擬授業に関しても同様に宮川他（2015）で取り上げられているが、学生がICTを利用して行う模擬授業については確認できなかった。つまり本稿は教職実践演習に関する研究に対して、新たな視点から実践的な知見を提供できる。

3. 教育におけるICTの利用

文部科学省によれば教科指導、総合的な学習の時間双方においてICTの活用は重視されている（文部科学省のweb(2)）。教科指導におけるICTの活用は教師による学習指導の準備と評価のため、授業での教師による利用、児童生徒による利用の3つがあると言われている。授業での教師によるICTの活用は情報の提示に対してICTを用いることで、使用は教師の発問、指示や説明とも関連付けられる。児童生徒のICTの活用は情報の選択、収集、考えや意見

を多様な方法で表現するための手段、繰り返し学習における使用などを含む（文部科学省のweb(2)）。総合的な学習の時間においても教科指導におけるICTの活用とはほぼ同じで、教師と児童生徒による利用が推奨される（文部科学省、2008、p.20；p.30）。特に、教師のICT活用に関しては情報技術の急速な進展に対して、現代社会が必要とするICTに関する知識・技能を身につける必要があり、ゆえに教師のICT活用指導力を高めておくことが大切だとされている（文部科学省、2010、p.122）。

これらのことから教職のための総合的なまとめである教職実践演習において学生がICTを用いた効果的な学習指導について考える機会を設定することは重要である。

4. 大学におけるこれまでの学習内容

(1) ICTに関する4年次までの学習

小学校教員免許を取得する学生のICTに関する大学内における学修については、まず1年次に必修科目として「情報科学概論」と「情報処理基礎I」を履修する。それ以降は選択科目として「情報処理基礎II」、「情報処理応用A」、「情報処理応用B」、「ワープロ演習」、「表計算演習」、「PCプレゼンテーション演習」を履修する学生もいる。そして3年次では「教育の方法と技術」（免許取得のための必修科目）においてICTを用いた教育方法について学習する。合わせて、学生は2-3年次に開講する小学校の各教科の指導法の講義も選択必修で履修するため、そこでは少なからずコンピュータを用いた模擬授業や学習指導案作成も経験している。

(2) 教職実践演習における学習

教職実践演習では15回に渡り、次のような内容を学ぶ。2017年度の教職実践演習はオムニバス方式で2名の大学教員（1名は国語科、1名は算数科担当で2名とも教育実習関連科目担当）が担当し、13名の学生が履修した。講義内容は以下に示す通りである。本稿は「第7回 授業研究ICTの活用」に焦

点を当てている。

- 第1回 オリエンテーションと履修カルテ（eカルテ）の振り返り、教育実習の振り返り、学級経営案（実践記録）
- 第2回 授業研究 算数
「100より大きい数を調べよう」
- 第3回 授業研究 算数
「わり算の仕方を考えよう」
- 第4回 授業研究 算数 「合同な図形」
- 第5回 授業研究 国際理解教育
（ロールプレイング）
- 第6回 外部講師の招聘（社会人としての基本、地域との連携）
- 第7回 授業研究 ICTの活用
- 第8回 教師の音読と朗読
- 第9回 教材開発と実践
- 第10回 国語授業研究 学生模擬授業①「文学」
- 第11回 道徳授業研究 学生模擬授業②
- 第12回 特別活動（学級経営、子ども理解、事例研究）
- 第13回 NIE(News in Education：教育に新聞を)の実践
- 第14回 授業方法と指導技術 国語授業を通して
- 第15回 外部講師の招聘（社会人としての基本、今日的教育課題の検討、子ども理解）

5. 模擬授業について

(1) 模擬授業の内容

取り上げる模擬授業は2016年11月28日の第7回に実施したものである。授業者は学生Sと学生Kで二人とも女性である。学生Sは来年度から任期付きの教員として就職予定で、学生Kは教育系分野に就職する予定であった。『身近なことから世界と私を考える授業Ⅱオキナワ・多みんぞくニホン・核と温暖化』（開発教育協会、2012、pp.11-47）を参考にして学生が学習指導案を作成した（添付資料）。

次のような授業研究の方法を用いて講義を進行した。まず学生たちが事前に学習指導案（6年次）、配布プリント、Powerpointのデータを用意した。授業前にそれらの資料を配布し、模擬授業を45分実施した。授業終了後、別の学生が司会を務め、それぞれが感想（良い点と改善点）を発表した。最後に、授業者2名が反省と感想を発表、担当教員が総評を行った。この日の講義の受講者は授業者を含み11名であった。

ICTを用いた模擬授業として、総合的な学習の時

間を取り上げた。その理由としては総合的な学習の時間では、他教科に比べて、様々な学習手段を用いた多様な学びのあり方を提案できるが、一方で様々な方法で授業を行うことができる可能性があり、学生たちの指導上の不安があったからである。

学生が考案した学習指導案から、以下のことが計画された。6年次の修学旅行で沖縄に行くために、事前学習として沖縄についての理解を深めること、また、沖縄の事例を通して戦争と平和、人権についても考え、行動する態度を養うことが単元の目的であった。本時の目標は沖縄に対する興味・関心を高めることと、米軍基地問題について触れ、理解することの2点であった。

授業時間の45分間全て、コンピュータを教卓に置き、プロジェクターでコンピュータ画面を投影した。使用ソフトはOfficeのPowerpointであった。Powerpointには学生が用意した写真、地図、歌が埋め込まれており、CDを用いて音を出した。補足的に、時折黒板が使用された。

まず、スライドに数枚の写真が示され、沖縄の街、商店街、祭りの様子が紹介された。次に沖縄の地図が示され、アメリカの基地がどれだけあるのかが、地図上に示された。さらに、「オーバー自慢の爆弾鍋」という沖縄の方言の歌を聞き、歌詞を聞き取りプリントに歌詞を穴埋めしていくという活動を通して、沖縄の文化について児童が学ぶ機会を提供した。Powerpointを用いて歌詞に出てくる沖縄料理の写真を示し、歌詞を聞きながら、沖縄の特徴的な食文化について学んだ。授業の後半では、歌の2番の歌詞中に戦争に触れる部分（「ばくだん」という歌詞）があるため、それを皮切りにして、戦争、そしてアメリカ軍の基地の話へと話題が移った。写真やニュース、新聞、インターネットの動画（5分）を紹介して、今沖縄で起こっていることについて問題提起を行った。最後にクイズを出して、授業内容を理解しているのかを確認し、授業を終えた。

(2) 模擬授業の参加者による振り返り

模擬授業後に児童役の学生たちは次のように感想を述べた。

- 学生A：「沖縄の歌詞から読み取ってみよう」という書き方はわかりにくいと思う。もう少し書き方を工夫した方がよい。歌詞を聞き取ろうとか。あとは沖縄の文化にたくさん触れる、戦争のことに触れるのはいいなと思う。最後、感想は共有した方がよいと思う。
- 学生B：全体的に二人ともハキハキしていてわかりやすくてよかったです。音楽が長い、飽きちゃう、聞き取れない、っていうのは皆からあって、一部分だけにすればよかったというのと、(教師の)言葉使いが崩れているのが気になった。動画説明で「やりあってる」という言葉が出てきたけど、もう少し適切な言葉を使った方がよい。新聞は個人で読む時間はいらぬ。わからない漢字もあるので、教師が読むのもよい。
- 学生C：教科書や文章だけで見るより、動画で見る、アメリカ人がどう思っているのかを見るのがとてもよかった。最初に、児童がどういうことを知っているかというのを、児童の知識をピックアップしてから画像を見る方がよかったかもしれない。Kくんと似ているけど「今日知ったことによって、自分が社会に出たときにどう役立つか」というのを先生(筆者注：担当教員)が先週言ったと思うから、この問題に対して自分はどうするのか、どうしたいのかわからないの考えるのもありだと思った。
- 学生D：最初にわからない写真が出てきて、面白かった。用語解説のときも「わからないな」というときに的確に解説していて、わかりやすかった。細かいことかもしれないけど、高江のオスプレイの説明をしたときに、「低空飛行していて迷惑」と出たときに低空飛行していて危ないっていうのが「そこで屋根があるよね」とか「家があるよね」と言ったら児童は「オスプレイってすごく危ないのだな」と思うし、

なんとなくわかるなって思いました。

- 学生E：映像などみてわかりやすくていいと思った。あと、歌の歌詞は何を言っているのかわからないから、最初に歌詞カードを配っても良いのかもしれないと思った。
- 学生F：写真とか見せたり、曲を聞いて沖縄に関する言葉を聞き取ろうとか、そして最後の「うちなクイズ」もあったりして、沖縄について考える時間がたくさんあってよかったと思った。曲はやっぱり難しく、私も何を言っているのかわからなかったので、結構長かったのもあり、飽きちゃうのもあるかもしれないから切っても良いと思った。沖縄に関するものではない言葉も出てきたので、沖縄っぽい言葉はこちらに、違う言葉はこちらに、というように黒板を最後見たときにわかりやすくなると思いました。
- 学生G：沖縄のことについて勉強するときに、Powerpointを使っていて、映像とか歌とか、集中して続けられた。(歌の)2番のところ、長いと思う。1番のところで2回目は切るっていうのもいいのかもしれない。
- 学生H：気づいたことを書くというのはすごく良い。沖縄の料理名などは知らない子が多いので、そういう面についてはどうするのか?と思った。
- 学生I：歌詞を読み取ろうというのは(児童を)巻き込むのでいいな、と思った。沖縄のいいところをあんまり聞いていないなって、だから、マイナス面ばかり聞いて、今の所は行きたくないなって思った。いいところもあるけど、実はこんなこともあって、っていうのが良いのではないか。もっと行きたいところを知ってほしい。

(会話の一部表現を改変)

(3) 模擬授業の授業者2名による振り返り

上記の学生たちの発表後に授業者の2名が次のような振り返りを行った。

授業者S

- ・ 総合的な学習の時間と社会科の歴史とかも合わせて、こういうのって、やっぱり考える時間も聞きたいから、社会科とは違う、社会科ではやれないことをやろうと思って、ニュースなど取り上げた。
- ・ 反省点は、曲が長かったことと、本に載っているのを取り扱ったが、沖縄には違う曲があるかもしれない。私たちも事前の準備で歌詞カードを見たらどうにかわかるって感じだった。皆から意見が出たように、沖縄のマイナス面ばかり出してしまった気がする。

授業者K

- ・ 反省点はいろいろあって、最近授業をしていなかったので言葉使いがとてもひどかったなと思った。直していきたい。
- ・ 授業の頂いたコメントはマイナス面ばかりだったけれども、良いところ、プラスの面はまた別の時間で取り扱えと良いと思います。

また、授業終了後に授業者2名に対して30分の半構造化インタビューを行い、学習指導案の作成や授業準備や分担、これまで大学で行ってきた学習との関連とその活用について自由に話す時間を確保した。そのインタビューの結果、以下の内容が確認できた。

・ 授業準備について

総合的な学習の時間はお手本がない。参考にした書籍を見て、最初は授業づくりをしようと思いインターネットで調べていたけれど、どうして良いのかわからなかった。先生との雑談の中で「今は(沖縄の)高江のことがニュースになっている」という話を聞いて、高江のことを調べてみた。大手のインターネット新聞にはあまり記事は出ていなくて、沖縄の地方新聞では多く書かれていた。それを辿っていくと「アメリカ人が高江や沖縄のことをどのように捉えているのか」という面白い視点の動画が出てきたので、

これを使おうということになった。インターネット動画は長かったので、切って編集した。最初は最近のニュースを探していた。できれば馴染みがある大手新聞、内地の新聞を使いたかったが、ほとんど見つからなかった。高江のニュースを聞いた時、琉球新聞の記事はたくさんあった。わからないけれど、沖縄の報道のものだから、内容もある意味、寄っているものかと思い、他のものを探したけれど見つからなかった(学生K)。基地問題は何をしているのか、どんな問題なのかがわかっていないということもわかった。そこで、今度は色々なニュースサイトの中で「高江」と入れると動画がでてきた。暴力的なものもあったので、教育的な配慮もして動画を選んだ(学生K)。動画や写真探しと、学習指導案の作成は手分けして行ったが、基本的には2人で授業を考えた(学生S)。参考にした本とは全く異なる内容になってしまったが、これで良かった。自分が知らないことが多くて、調べ学習自体がとても面白かった。勉強することが多くて、でも、調べれば調べる程面白い。何だろう、うまく伝えていけたかどうかはわからないけれど(学生K)。

歌や写真の使用については、「オーバー」の歌と写真を連動させれば、授業の長さは半分くらいになるから、曲から入って動画付きで見せて、とやれば時間短縮にもなり効率的で良いのではないかと思って編集した(学生K)。

模擬授業のために毎日2人で会って、2-3時間話をして学習指導案も作り変えたけど、実際に授業練習はしなくて。それは(模擬授業を)やるのは学生に対してだから、甘さがでた。詰めの甘さがでたと思う(学生S)。

・ 実際の授業について

他の学生からも指摘があったように歌の選定は難しかったが、なかなか題材に合う歌を探すことができなかった。歌の難しさに関しては自分たちも指摘と同じことを感じていたが、そのまま行ってしまった。歌をかけているときに、写真を見せたことは効果的だった。歌が他にも見つけられると良かった(学生

S)。歌の長さは課題だと思う。あとは基地の話をもどのように入れ込むのか、それから衣食住の沖縄の紹介と戦争の話のバランスや話題提供の仕方が難しかった（学生K）。沖縄の色々なことを紹介して楽しみすぎるのも良くない、でも米軍基地のことだけを取り上げると、暗くなる。そんな中で内容を詰め込みすぎたのは自覚している（学生S）。授業を行う中で、先のことを考えたり、つながりを考えたり、これがあるからこうしよう、ああしようとは考えた。でも、改善点については絶対にそこを突かれると思っていた。指導全体では、特に目標や狙いと内容のつながりがないということや、題材設定と私たちの意図にも差があった気がする（学生K）。

・授業の振り返り

指導内容を組み立てていくにあたって、自分たちがインターネットで調べれば調べるほど、面白くなっていった、調べることに夢中になっていった。また、日本の新聞は都会の新聞では高江の問題を取り扱っていなかった。検索をかけて出てきた新聞はほとんど沖縄の新聞で、本土と沖縄の温度差を感じた。調べることはとても面白かったが、実際に模擬授業を行うと、なかなかうまくいかないということも学ぶことができた。やってみないとわからない（学生K）。総合的な学習の時間は、はっきりと何を伝えたいのか、めあてやゴールがわからないというのが難しいけれど、例えば今回だと米軍基地について、詳しく話し合うことを提供できるのがこの時間の良さだと思う（学生S）。

・他の授業との関連性

3年生の教育の方法と技術で国際理解教育やICTの活用について学んだが、その時は教育実習にも行っていなかったもので、具体的な授業が想像できなかった。でも教育実習が終わり、今回は具体的な学習指導案についても考えることができていたと感じた（学生S）。

（会話をわかりやすく改変）

6. 考察・まとめ

これらの結果から、学生が学んだものに関する考察を加えたい。第一に、授業における批判を受け入れることができてきている点である。学生の授業研究については本講義の前半で何度も行い、学生たちは「計画-実施-反省-改善」という授業研究のサイクルに慣れてきていたため、他の学生からの批判を授業者は建設的に受け入れることができるようになっていく（例えば学生Sの授業後のインタビューでの「他の学生から指摘があったように」や学生Kの授業後のコメント「直していきたい」「マイナス面はあったけれど」より）。

第二に、教育実習を4年次前期に終了し、実践的な力を身につけたこともわかる。それらのことが模擬授業に参加した学生の振り返りから読み取ることができる。例えば、学生Aの「書き方が良くない」という指摘や「感想は共有した方が良い」といった意見、学生Bの言葉遣いの指摘やわからない漢字についての言及である。また、模擬授業参加者の学生たちは「自分だったらこうする」という具体的な改善案も示しており、これも教育実習での経験やこれまでの学びが活かされていると考えられる。これらのことは例えば、学生Cの「児童の想定される知識を前提として授業を展開したらどうか」という指摘や学生Dの「オスプレイの怖さをわかりやすく説明するには」という発言にも見られると思われる。

第三に、ICTの活用について考察したい。近年のICTの発展もあり、ニュース動画の編集、多様な情報を確認し、適したものを取捨選択するといった技能を学生が身につけており、それを教材研究に活かしていたことが明らかになった。授業者の学生はICTを用いることにより、効率的に情報を示す方法を考えて試行錯誤していることが明らかになった（学生Kのインタビュー、歌や写真の使用について）。ICTは授業を効率的に実施したり、情報を様々な媒体を使って示したりすることに効果的で、これらの特徴を時間的制約がある中、彼らが有効に授業内で活用した点は評価できる。

ICTを用いたことによる教育効果に関しては動画で見ることによる疑似体験（学生Cの振り返り）やわかりやすさ（学生Eの振り返り）が指摘され、これらのことはICTを用いる利点として児童役の学生に伝わったと考えられる。

最後に、学生の学びについて重要な点が明らかになった。授業者の学生2名は、当初は何を行うのか不明確であったが、書籍を読みインターネットを調べていくうちに、自分たちが探究する楽しさや指導を構成する面白さに気づいていった。調べるプロセスにおいても、ある事象が社会の中でどのように扱われており、また情報の広がりについて、どのような偏りが社会に存在しているのかを経験的に学んでいた（学生Kのインタビュー、授業後の振り返り「調べることは面白かった」や授業準備についてのインタビュー「勉強することが多くて、でも、調べれば調べる程面白い」から）。このことは、教師自らの学ぶ姿勢の大切さを示している。学生がインターネットで調べていくうちに、参考図書の内容から離れ、独自の内容を考え、学習指導案を作るに至った事実からも、学生の学びが充実していたことを示している。

学生の振り返りとインタビューから浮かび上がる課題としては第一に、授業者を含む学生間においては授業の流れについての議論はほとんど見られず、一方で、教育方法や技術に関する指摘が多い点が確認できた。授業者は授業の流れがよくなかったことに関しては、インタビュー時に多少気がついてはいたものの、授業の流れが悪かった場面がいくつか見られた。例えば沖縄の食文化について触れたあとに基地の話を導入した際に、話題が断絶していた。そのほかにもクイズの内容が、それまでに学習した食や文化、戦争や基地の話とはかけ離れていた内容であったし、児童役の学生が指摘するように、高江のことを動画で学んだ後に、児童が考えを深め、共有する時間も確保していなかった。

第二に、本時において最も大切な発問について学生は考えることができていなかった。発問の重要性は教育実習事前・事後指導や本模擬授業以前の教

職実践演習でも複数の教員が指摘し続けてきたことである。しかし、学生たちには必ずしもこのことが浸透しているとは言えないことがわかった。この点は学生自身が気づきにくく、また改善には時間を要する点であると考えられる。今後は、授業研究会において模擬授業の後の検討会を行う前後に、あらかじめ議論の視点を教員側から提示しておくことが必要であるとする。あるいは、教職実践演習内で学生たちの授業を捉える視点を継続的に可視化させ、それを振り返るといった営みが必要であろう。

第三に、授業検討の際の授業者の振り返りとインタビュー時の発言に大きな差があった点である。インタビュー時には授業計画において様々な試行をしていることが明らかになったが、それは他の学生が知る由もない。学びの過程や苦勞した点などを共有できる機会を作ることで授業作りの難しさ、またICTを利用することの価値づけが授業に参加した他の学生にも理解できるような場を設定すべきであった。また、今回の授業研究では総合的な学習の時間の目的・内容についての議論は多く見られたが、ICTを使用する良さ、課題について教員による議論する時間の設定を行うべきであった。そうすることで方法や技術としてICTを利用する利点、難しい点を具体化する機会を学生に与えることができたろう。

総括すると、本稿で述べた授業研究の模擬授業のように、学生のこれまでの学びの集大成を具体化する試みは可能であると示すことができた。また教師にとって必要不可欠である、自分自身で学び続けることの面白さに学生が経験的に気づいたという点は、質の高い授業を行うためには価値があることだと思われる。

今後の講義全体に関する課題として、教職実践演習の質をより高めるために、足立区の教育委員会や小学校とも連携しながら、例えば授業研究に外部者が参加し指導を受けることや、逆に、小学校に訪問するなどの内容も盛り込んでいきたいと考えている。

引用参考文献

- 上田喜彦 (2013) 「教職実践演習の構想と実践：教科等の指導力とICTの活用力の育成」、『総合教育研究センター紀要』、(12), 23-37.
- 大島英樹 (2011) 「教職に関する科目としての『教職実践演習』の意味－「総合演習」との対比において－」、『立正大学心理学研究所紀要』、9, 27-38.
- 開発教育研究会 (2012) 『身近なことから世界と私を考える授業Ⅱオキナワ・多みんぞくニホン・核と温暖化』、明石書店.
- 齊藤ゆか (2016) 「課題探求能力を高める『教職実践演習』のあり方－学校教育及び生涯学習が扱う「社会」の検討から－」、『神奈川大学心理・教育研究論集』、39, 71-79.
- 中央教育審議会 (2006) 『今後の教員養成・免許制度のあり方について (答申)』、文部科学省.
- 東北大学教職実践演習運営委員会 (2016) 『平成27年度「教職実践演習」実施報告書』、東北大学教職実践演習運営委員会. (<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0903/005.pdf>, 2017年3月15日閲覧)
- 長谷川哲也 (2015) 「『教職実践演習』の成果と課題に関する検討－静岡大学教育学部における2013年度の取り組みを通じて－」、『静岡大学教育学部研究報告』、65, 151-164.
- 深川八郎 (2014) 「『教職実践演習』の取り組みと課題」、『摂南大学教育学研究』、10, 1-6.
- 文部科学省 (2010) 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」、文部科学省.
- 文部科学省 (2008) 「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」、東洋館.
- 山田丈美 (2009) 「教職実践演習における言語的实践－その可能性と限界－」、『中部学院大学・中部学院短期大学部研究紀要』、10, 123-131.
- 宮川洋一、山崎浩二、名越利幸、渡瀬典子、ジェームズ・ホール、土屋 明広、田中吉兵衛、立花正男、山本 奨、今野日出晴、川口明子、田代高章、藤井知弘、長澤由喜子、遠藤孝夫 (2015) 「教職実践演習における模擬授業のあり方とICTを活用した評価方法に関する研究」、『岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』、14, 219-230.

引用参考ホームページ

- 文部科学省のweb(1) 「教職実践演習 (仮称) について」 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm, 2017年3月16日閲覧)
- 文部科学省のweb(2) 「教育の情報化に関する手引き検討案 第3章 教科指導におけるICT活用」 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryu/attach/1249662.htm, 2017年3月13日閲覧)

(なかわ なぎさ) 関東学院大学

添付資料

学生が作成した学習指導案

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1 題材（単元・主題）名

沖縄について知ろう

2 題材設定の理由

(1) 単元について

観光旅行先として人気の高い沖縄は、日本領とされて第二次世界大戦の激戦に巻き込まれ、いまだ基地被害などにいる。こうした問題への意識は本土の人々と地元の人々との間にとっても大きな差がある。修学旅行の事前学習とし、沖縄に行く前に沖縄に関する学習を重ね、実際に沖縄を訪れ、文化や自然を体験し、戦争の傷跡や基地の様相を肌で感じ、人権や平和について学ぶことは、豊かな未来と平和構築に向け自分にできることを考え、行動していく態度を養うことにつながっていくと考える。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発な児童が多い。興味・関心のあることに対して、目を輝かせて一生懸命に取り組むことができる。また、お互いを思いやり、協力して生活しようという意識が高まりつつある。4月より始まった歴史学習に対して、意欲的に取り組んでいる。この傾向は、2学期も同様である。そして、現在学習している、第二次世界大戦の沖縄戦の悲惨な状況をさらに調べることを通して、戦争の背景や世界で唯一の被爆国の国民としての戦争に対する自分なりの思いを持たせたい。平和を保つために、まず自分たちに何ができるのか、どうすることが大切かを考えさせながら、自分の周りの人々に対する思いやりの気持ちを育てたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、沖縄に関する文化、歴史、音楽に触れて、展開していきたい。コミュニケーション活動を多くし、たくさんの資料や見方を触れさせたい。そして、資料から読み取る事実を客観的に捉えさせ、それをもとにした児童なりの意見を尊重していきたい。そうすることによって事象に対する自分の考えや思いがより強く持てるようになり、自分の言葉で意欲的に発言することができるようになると考える。これからの平和についても考え、生命尊重人権教育にも結びつくように指導を展開していきたい。

3 単元の目標

沖縄の特徴や平和について、興味・関心を持ち、まとめた情報や考えを積極的に発信することができる。（関心・意欲・態度）

様々な角度からみた沖縄の問題や平和について考えることができる。（思考・判断）

自分で必要な情報を集める。自分の考えをまとめ、相手や目的に応じてわかりやすく伝えることができる。（技能・表現）

沖縄を取り巻く様々な問題を理解することができる。（知識・理解）

4 評価規準（題材全体に対して）

関心・意欲・態度	・沖縄の特徴や平和について、興味・関心を持ち、まとめた情報や考えを積極的に発信することができる。
思考・判断	・様々な角度からみた沖縄の問題や平和について考えることができる。
技能・表現	・自分で必要な情報を集める。 ・自分の考えをまとめ、相手や目的に応じてわかりやすく伝えることができる。
知識・理解	・沖縄を取り巻く様々な問題を理解することができる。

5 単元の構造（書くことが可能な場合は複数の時間を仮想設定して記述する）

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・沖縄に対する興味・関心を高める。
- ・米軍基地問題について触れ、理解する。

(2) 準備物

歌詞カード、ワークシート1、ワークシート2、音楽の音源、動画、写真

(3) 学習過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（支援・指導と評価）	備考（教材・教具等）
5	1. 沖縄の写真や地図を見る。 地図で塗りつぶされている部分が何を示しているのか考える。	○沖縄の米軍専用施設の場所を示した地図を提示する。ヒントも与える。 ☆資料から、沖縄について意欲を持って知ろうとしている。（関心・意欲・態度）	ワークシート1
	2. 本時の課題を記入する。	沖縄の特徴を知ろう。	
10	3. 「オーバー自慢の爆弾鍋」の曲を聴く。	○CDを流す。耳を澄まして聴くように、指示をする。	CD
20	4. 曲を聴き、歌詞から、歴史的なこと、沖縄の料理名など気づいたことを発表する。	○次回の沖縄戦に繋げるために、戦争に関する言葉を発見した児童を取り上げる。	
35	5. 歌詞カードを見て答えあわせをする。	○言葉の説明、写真など提示し、理解させる。難しい語句はその都度説明する。	Powerpoint
	6. 米軍基地問題について理解する。そして、自分の考えを記入する。	○最近のニュースを取り上げる。	動画 写真
45	7. グループ発表する。	☆沖縄を取り巻く様々な問題を理解することができる。（知識・理解）	ワークシート2
	8. うちなクイズに答える。	○解答したら回収をし、次回答え合わせすることを伝える。	
45	9. 感想を記入する。	☆自分の考えをまとめ、相手や目的に応じてわかりやすく伝えることができる。（技能・表現）	
	10. 発表する。		
	11. 次回の内容を聞く。		